

令和2年度第3回守口市総合教育会議

○議事日程

令和3年2月16日（火）午前10時00分 開会

○出席者（6名）

市長	西端 勝樹
教育長	太田 知啓
教育長職務代理者	渡邊 一郎
教育委員	江端 源治
教育委員	堀 俊一
教育委員	杉岡 佐緒理

~~~~~

◇ 午前10時00分 開会

○西端市長　それでは、令和2年度第3回守口市総合教育会議を開催したいと存じます。教育委員の皆様方におかれましては、日頃より守口市の教育行政の発展にご尽力いただき、厚くお礼申し上げます。また、コロナ禍の中、大変外出しづらい状況にも関わらず、ご参集賜りまして、誠にありがとうございます。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速ではございますが、お手元の次第にあります議題1について、事務局から説明を受けます。

○事務局　それでは議題1「次期守口市教育大綱の策定について」ご説明いたします。恐れ入りますが、お手元の資料1「第2次守口市教育大綱（案）」に対するパブリックコメント結果」をご参照賜りたいと存じます。

本資料については、去る令和2年8月27日に開催いたしました令和2年度第2回守口市総合教育会議におきまして、ご協議を賜り、素案としてご決定を賜りました資料2の「第2次守口市教育大綱（案）」につきまして、パブリックコメントに付したところです。期間については、資料1に記載のとおり令和2年12月14日から令和3年1月13日まで、市内公共施設14か所への設置及び市ホームページに掲載し、ご意見を募ったところです。その結果でございますが、資料1のとおり、本件に係るご意見の提出はございませんでしたので、ご報告申し上げます。つきましては、令和3年度からを計画期間とする次期教育大綱案について、当会議においてご審議の上、ご決定を賜りますようよろしくお願いいたします。

以上、甚だ簡単ではございますが、議題1「次期守口市教育大綱の策定について」のご説明を終わります。

○西端市長　事務局からの説明が終わりました。次期守口市教育大綱の策定につきまして、ご意見などがございましたら、よろしくお願いいたします。

(なしの声あり)

○西端市長　意見がないようでございますので、令和3年度から令和7年度までの5年間を計画期間とする「第2次守口市教育大綱」を原案のとおり決定することに、ご異議はございませんか。

(異議なしの声あり)

○西端市長　ありがとうございます。ご異議がないようでございますので、「第2次守口市教育大綱」(案)については、原案のとおり決定させていただきます。

それでは、本大綱の推進にあたって、私の所見と教育委員会へのご要望をいくつか申し上げたいと思います。

ただいま、決定した第2次守口市教育大綱に基づいて、教育委員会と学校教職員の皆さんが心を一つにして、子どもたちのために奮闘いただきたいと思っております。その中でも特に、学力向上に力を入れていただき、これまで以上の成果を上げていただきたいと思っており、その点、強くお願いを申し上げます。

本市では、令和3年度から第6次守口市総合基本計画がスタートします。計画においては、将来都市像として「いつまでも住み続けたいまち守口～暮らしやすさがちょうどええね～」を掲げ、5つのまちづくりの目標を定めたところです。その中の一つとして「子どもや若い世代が夢を育めるまち」と定め、教育の充実をしっかりと位置付けました。総合基本計画審議会では、定住に向けた取組において教育の充実、とりわけ学力の向上を図ることが大切であるとの意見を数多くいただき、私もそのように思っているところでございます。

このため市として、0歳から教育・保育の無償化、待機児童の解消に続く、次の施策として現在、子ども医療の助成対象年齢を15歳から18歳まで引き上げを行うとともに、子どもたちの学力向上を図るため、令和3年度から全小学校等での事業成果を踏まえ、全中学校等で民間事業者による放課後学習会を実施するための予算を計上したところです。

私は、民間活力を導入した学習習慣の定着や学力向上は、部分的なもの、

あるいは、限定的なものと考えています。その基礎的なところは、学校教職員の皆さんが強い思いをもって取り組んでいただくことが何よりも重要であると思っています。今般、導入したGIGAスクール事業の1人1台端末の最大限の活用など全ての児童・生徒の学力向上を図っていただきたいと思っています。そのための予算や教育に係る案件において効果的であると思われるものについては、今後とも市長部局として可能な限り必要な手立てを講じていく思いをもっておりますので、教育委員会におかれましてもその思いを汲んでいただき、学校教職員への指導と益々の支援をどうぞよろしくお願いいたします。私からは以上でございます。

それでは次に、議題2「その他」に移ります。本日の議題以外で幼児教育、放課後施策などについてご意見がございましたらお受けしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○杉岡教育委員 このたび、市内在住の小中学生に図書カードを配布していただきましてありがとうございます。保護者の皆さんからも反響はすごく大きく、市長がおっしゃるように学力向上には読書習慣を身につけることが必要になってくると思います。読書は、問題を解く読解力を養ったり、心や命を大切にすることや心豊かに育てたりすることに繋がることから重要であると考えています。

なぜ、子どもたちは本を手にとらないのか、なかなか本を借りにいかないのか、という話を周りの子どもたちにしたところ、教室から図書室が遠いから面倒くさい、毎日開いていないとか、学校に確認すると学校司書が来ていないから開けられないとか、学校コーディネーターに聞くとボランティアの方とか先生、司書がいないとちょっと難しい、とのこと。授業で2、3カ月に1回しか図書室に行けない、長休時は開いているが、長休時は外で友達と遊びたいということがあって、なかなか行かない、足が向かないという話もありました。本が好きな子どもたちはすごく多いです。例えばですが、本から子どもに近づく、先生や司書にこの学年にはこんな本を読んでほしいというものを選んでいただき、子どもたちにもリクエストを聞いて、本をセ

レクトして学校の子どもたちの教室の前の廊下とか、そういったところに貸出し可能な本を置いていただいて、いつも子どもにとって取りやすい場所に本があるという環境をつくることも方法のひとつではないかと思っております。

そのためには、学校司書の方やスクールサポートスタッフなど人的配置が必要になるかと思っておりますので、その点、市長にまたお力をいただけたらと思います。よろしく申し上げます。

○西端市長　　今、ご意見をいただきまして、今般のコロナ対策の事業として図書カードを小学生と中学生、金額は違いますけれども、全小中学生に配布させていただきました。できるだけ読書に触れていただくということで、図書館も開館したので、できるだけ守口市立図書館に行っていたきたいなと思います。

学校司書の問題についてはこれまでから議会からもいろいろ指摘をいただいているところです。守口市はこれまでコミュニティセンターでも図書室もございましたし、もちろん学校にも図書は置いております。学校図書館は、毎日開けているのですか。

○事務局　　毎日、限られた時間ですが、開放しております。

○西端市長　　司書がいる、いないという問題があるかと思っておりますけれども、できるだけ教職員の皆さんにも力を出していただいて、司書がいないところは補っていただきたいと思っておりますけれども、守口市としてもそのことを考えていかないといけないと思っています。今後とも、ご協力よろしく申し上げます。

○堀教育委員　　図書のことで図書に関するボランティアといいますか、読書を推進するようなボランティアの方もいらっしゃるんじゃないですか。

○西端市長　　読み聞かせのボランティアの方に、来ていただいていますね。

○堀教育委員　　そういう方と連携して地域ぐるみでやっておられるという話を聞きますけれども。

○西端市長　　それは今、守口市でもやってもらっていますね。

○事務局 市長、おっしゃるとおりです。

○西端市長 どんな感じでやっていますか。

○事務局 中学校区によっての格差というものがあるのですが、地域の方々の読書ボランティアに加えて、団体としてご協力いただいている方々、学校司書と、また教員の中に司書教諭がおりますので、そこを中心にボランティアの方々と連携して可能な限りの読み聞かせであったり図書室開放であったりなどの取組を進めさせていただいているところです。

○西端市長 学校司書について週何回、各学校で開けていただいていますか。

○事務局 学校司書については中学校の3校に1名の配置になりますので、基本、多くの中学校区では3日に一度、各学校を巡回しているところです。

○堀教育委員 守口市は地域ぐるみでお母さん方が非常に学校教育に理解があって、子どもの教育環境を良くすることをサポートする取組、そういう地域ぐるみのボランティアという絆がとても強いと聞いています。そういうところが守口市にとっては非常に心強いなと感じます。それがますます広がって行って繋がりをもっていくと、地域ぐるみということが誇りと愛着に結びつくのではないかと思います。

○西端市長 そうですね。ありがたいことに守口市は学校の登下校の見守りも高齢者の皆さんに頑張ってもらっていますし、ある地域、ない地域はございますけれども、皆さん子どもたちの安全安心ということでいろいろとご協力もしていただいております。またPTAの皆さんも学校に対する思いとして、いろいろとご協力をしていただいているところでもありますので、これからもそういうことを成熟させていき、守口市もしっかりと教育に力を入れて、先ほど申しましたように学力の向上につなげていきたいなと思っています。

○渡邊教育長職務代理者 学力向上については、従来から教育の原点として取り組んできているところですが、小中一貫教育の趣旨で9年間を見通した学校教育を有効に展開できるよう、ICT教育などは守口市では特に先進

的に取り組んできたという経過があります。

今回のコロナ禍のような特別な事情が出てくると、それに伴う追加の措置を講じていかなければならず、今回GIGAスクール事業をご決断いただいて開始することができたというのは本当にありがたく思っております。ただ、国の整備水準できちんと整備していくことが求められる状況で、新たな取り組むべきことが出てきたときにそれに対応するという事は予算を伴うことが非常に多いです。また、国でいろいろな事業を展開されるときにそれに手を上げて先進的な取組をしていくということも必要だと思います。新たなことをしようとする、どうしてもお金がかかるという問題が避けられない状況にあります。それぞれが取り組むべきことをした上で、かつ、さらなる事業展開をこれからも考えていかななくてはならない中、予算の枠があるのはよくよく分かりますが、手を上げて積極的に取り組んでいける環境を教育委員会が整備していかななくてはいけないという部分に関して、もう少し早く対応できるような状況になればいいな、ということが我々の願いであります。そのあたりについては今後もお願いすることにはなるのですが、十分ご配慮いただきたいと思います。

それから、魅力ある学校について、新しい学校ができて綺麗になり、いろいろ条件がよくなる学校もあれば、従来型の施設が老朽化していく中で、長寿命化を図っていかななくてはならない学校もあります。これもお金と時間がかかる問題であり、親御さんにとってみれば自分の子どもたちが通う学校は決まっているので、ほかの新たなことができるようになったところに比べて若干遅れている、と思われる保護者の方々もおられます。できるだけそういうことを少しずつでも改善していくということも併せてお願いしたいという気持ちが大変強いです。お金の問題になりますが、ぜひともご配慮いただきたい。こういうことを申し上げる機会はそうそうないので、あえて申し上げました。よろしく願いいたします。

○西端市長　　ありがとうございます。

○堀教育委員　　今年、守口市は1人1台のタブレットが全部の小中学校で

一人ひとりに行き渡りました。学力向上を目指している守口市としては、このタブレットを導入したことが、いかにこの学力向上に効果的なのかということ保護者の皆さんにも分かっていただくことが必要になると思います。その一つとして、守口市はICTがキーだと世間には浸透しています。ICTの教育の先進自治体としてICT教育の推進に貢献すべきだと思います。

守口市の全国学力調査の実態を見てみますと、家庭における勉強がどうしても習慣化されていない。どういうふうに家庭に帰って勉強したらいいのか、またコロナ禍で休業期間が延びて、各児童・生徒に勉強を委ねられると全くどうしていいのかわからない。先生の指示がなければ動けない。そういう状況にあるので保護者の皆さんも非常に心配されているわけですね。そこで、GIGAスクール構想の中の一つとして、個別の最適な学びということを守口市は掲げています。それはどういうことかと言うと、子ども一人ひとりの学びのテンポが違うわけです。どこかでつまずくとそれが解決されないままに、年齢がきたら次の学年に上がっていくということで、つまずいたお子さんはずっとつまずいたままです。いつ学力の回復を、チャンスを得ることができるのかということ保護者の皆さんも非常に心配なんです。この前の守口市の学力向上プランで、学校でする授業と家庭でする勉強が非常に連続的なものだと意識させようではないかというお話が出ていました。これは非常に良いポイントで、子どもが家に帰って何をしたらいいのかということが分かるような授業を整理するように考えていこうという話も出ております。

それで、宿題を子どもたちがする場合にタブレットを活用するという方法があります。タブレットというのは、この前、教育長がおっしゃっていらっしやいましたけれども、AIドリルであれば1年から中3まで学習指導要領に則った教科書に準じた内容の問題集、ドリルが入っており、自分がどこからやり直しをすれば自分の力で乗り越えていけるかが、わかるようになっています。

宿題でタブレットをフル活用する。例えば、1週間のうちに2回か3回は



タブレットを家に持って帰らせると、あなたはこういう問題が弱いのでこういうところから手がけて宿題として考えなさい、というようなアドバイスなども先生が一人ひとりに出せるわけです。そこでAIドリルのようなものを先生がつくる能力があればいいですけども、なかなかつくれないということもあり、例えば民間のノウハウを活用するという方法もあります。東京や神奈川や埼玉などの小中学校は学研さんのそういったノウハウをいただいで、自分の子どもが5年生だけれども4年生のここの算数のこの問題を頑張らなさいと先生からアドバイスが来ると。そこですぐドリルで取り上げて、家庭で繰り返し学習ができるわけです。家庭でタブレットを活用できるような知的ドリル的なものをソフトとして購入すれば、それこそ非常に有効になると思います。そういうソフトを購入できれば、学習履歴という自分が勉強した足跡が見ることができるものを大事にして対応していきまし、学校でも学び直しの時間に過去の学年に戻ってもう一遍やり直すことができ、特別時間枠を設けてその時間帯に自分自身で学習できるということにもなります。

読書でも、タブレットを使えば自分はこういう本を読んでいたとか、この本のこういうところが面白いですよとか、こういうところに感動しましたとか、この作者にはこういう本がありますよとかをプレゼンすることもできるんです。タブレットをいかに有効活用するのかということを守口市は力を入れていきますので、そのときに人的なものとかソフト的なものとか教材ソフトみたいなものが需要であれば、検討していただければありがたいなと思っています。

○西端市長 分かりました。配布しているタブレット端末に、ご指摘のあったドリル機能はあるのですか。

○事務局 現在、子どもたちに配付している端末には、堀教育委員がおっしゃっていただいたようなドリル機能が全て整備されておまして、子どもたちが学習履歴を蓄積しながら自分に合ったところを取り組めるようなドリルは整備されております。今後1人1台端末の整備によって、また民間のいろんな研究が進められて、より良いいろんな機能をもったものはこれから生

み出されていくと思いますので、その際にはこの守口市の子どもたちの実態に応じて効果的と考えるものを我々も整備等も計画していきたいなと思っています。

○西端市長 家庭環境のWi-Fiなどの通信環境の整備はどうですか。

○事務局 今年度からタブレットを順次導入させていただいて、通信回線がないというご家庭も我々が調査しました結果、少数ではありますがございました。そのための対応については、令和2年度中に回線が繋がるルーターの貸出し準備は整えております。また、令和3年度はご自宅に持って帰っていただいても、インターネット回線でおかしなところに繋がってしまうというようなことがないように、セキュリティについても予算措置をさせていただきましたので、それについても一定、子どもたちにはガードをかけた上で、安全に家庭で使っていただけます。そして、タブレットでドリルなどを持って帰っていただいてやっていただくというような準備も進めておりますので、そういった部分も含めてまた対応していきたいと考えております。

○堀教育委員 非常にありがたいです。タブレットを活用することが保護者の皆さんにも子どもさんにも浸透していくこと、ICTが使える素地を小さい頃からつくっていくことは非常に心強いと思います。ぜひ進めてほしいと思います。

○西端市長 タブレット導入における情報も国から徐々にいろいろ入ってくると思います。予算措置をしっかりとしてほしいということでもありますけれども、限られた予算の中でできるだけ教育に力を注ぎたいと思っております。

新しい学校と既存校の問題も地域的にもいろいろありますが、既存校であるがゆえに教育の環境が劣るとか、そんなことを言われる保護者の皆さんもおられます。けれども、今後はなるべく新設校と既存校の格差がないように長寿命化の計画も今進めているところであります。それが進みますと、ある程度は格差の是正ができていくのではないかなと、予算措置もしっかりとさせていただかないといけないと思っております。また、下島小学校と八雲小学校の統廃合の件もあります。今回、私の市政運営方針でもその話もさせて

いただきたいなと思っているのですが、しっかりと地域の皆さんと話をして、この課題についても進めていきたいと思っております。そのためには予算もつけるところにはつけていきたいと思っておりますので、またいろいろとご意見がございましたら、できうる限りやらせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○江端教育委員　繰り返になってしまうのですが、学力向上については現場も当然それが使命ですから努力しますが、現場から新しいことをチャレンジしたいということが出てこないと楽しいわくわくする学校にはなりません。その中で予算に限りがあることは当然のことと思ひますが、予算の額、多寡に関係なく英断することができる市長だと私は思っておりますので、これは良い取組だと思ひようなものについては、是非とも前向きにご判断いただくよう、よろしくお願ひしたいと思ひます。

具体的に一つだけございまして、体育館の空調です。最近は何もすごく暑く、そして災害も頻繁に起こります。子どもたちの体育の成長に加えて市民の安心にも繋がりますので、ぜひスピード感をもって具体化していただければと思ひます。以上です。

○西端市長　ありがとうございます。予算要望のときには教育長はじめ市長部局に本当に予算要望がたくさんありましたが、今、お話をさせていただきましたようになかなか限られた予算でございまして。一番これは、と思うところに予算措置をさせていただいているところではございまして、全てできたら守口市の教育は素晴らしいものになるだろうと思ひましたけれども、なかなかそこまではいかないというのが現実でございまして。その中でもいろいろと今回も拡充させていただいております。

それと体育館の空調でありますけれども、文科省ではなかなか体育館の空調まで国の予算が取れないとのことであります。私も文科省に教育長と一緒にいろいろと要望に行くんですが、文科省ではなかなか無理だとのことです。できる限り早く体育館へ設置をしたいなと守口市としても思っておりますので、教育長にも力を貸していただいて、スピード感をもって設置させていた

だきたいという思いをもっております。ほかにございますか。

○太田教育長　今回、次期教育大綱をまとめていただきました。教育委員会としましても今、毎年策定しております「めざす守口の教育」という、教育大綱を具体化するアクションプランを策定しております。また、総合基本計画でも特に力を入れてやっています学力向上につきましても、来年度から新たな学力向上プランというものを教育委員会の皆さんと一緒に策定をしているところをございます。

今はコロナ禍で学校教育そのものが大きな転換期を迎えています。本当にしっかりとコロナ対策をしつつも学びを保障していくという大きな責務を担っておりますので、しっかりとこのまま取り組んでいかなければならないなと思っております。

3つだけ絞って申し上げますと、学力もそうですが、当然ですがエビデンスをきちんと出して、そこから見える課題というものを市長はじめ市民と情報共有して、それを一緒に解決していく方向で進めていきたいなと思っております。例えば学力一つをとりましても、本市は確かに平均で見れば全国平均を少し下回る程度なのですが、内訳を見てみますと、低位の学力層がかなり割合を占めています。例えば全国学力・学習状況調査で1問も解けない子どもたちが相当数いますので、そういった子どもたちが何とか問題を解けるようになれば、恐らく学校の授業もなかなか参加できない子どもたちだと思いますので、何とか手だてをして子どもたちの学びに向かう力を高めていければ、守口市全体の学力も上がっていくと思っております。そういったデータをできるだけ分かりやすく示して、それに基づき、どういうことをしていこうかということを考えていきたいと思っております。例えば英語なんかも全国学力・学習状況調査では「話すこと」などが低いような結果が見られます。では、英語を「話すこと」を高めるためにはどうしたらいいのかということも、例えばAETのネイティブな方をもっと活用したりですとか、デジタル教科書などを使って子どもたちのコミュニケーション力を高めたりですとか、そういったデータに基づく具体的な手立てというのを考えていきたいと思っております。

先ほど杉岡教育委員からも学校図書館の話がありました。学校図書館は非常に課題でして、子どもたちが本を読まないということも課題ですし、せっかく今回図書カードを配ったので、それをきっかけにして子どもたちがさらに本に手が伸びるようにしていくためには、ふだんから読書指導を司書教諭のみならず、学校司書という専門性をもった方が子どもたちに休み時間をはじめ、読書指導をするようなことをしていけないといけないと思っております。実際にこれも全国学力調査の結果で私も驚いたんですが、学校図書館を使ったことがないという子どもたちの割合が7割もいました。全国平均だと5割ぐらいです。守口市の割合は非常に高く、学校図書館に何らかの課題がありますので、そういったところを分析してみんなで一緒に考えていきたいなと思っております。

ICTについては、GIGAスクールが今ようやく始まりを迎えておりますし、学習ドリルなどで子どもたち一人ひとりの学習課題というのをちゃんと分析して、これもデータに基づいて指導方法を工夫していくということをこれから取り組もうとしております。昨日、実はどんな感じで準備しているのかなと学校をちょっと見てきたのですが、本当に先生方が一生懸命に研修に取り組んでおりました。でも、やっぱり見てきて思ったことは、学校の教室は遅れていると実感しまして、本当に狭い教室で、一人ひとりの子どもの机の中を見たらいろんな教科書とか教材教具も横にぶら下げており、置く場所がないような状況で、ロッカーもいっぱいでした。廊下にまでロッカーがあって、防災上に課題があると思いました。すぐにはできませんが、そういった学校の教室や学習機とかを国でも今検討を始めておりますので、そういったものも参考にしながら子どもたちが学びやすい環境というものを教育委員会としてもしっかり考えていきたいと思っておりますので、また市長のお力をいただけたらなと思っております。

最後に、先週末に東北地方でまた大きな地震が発生しました。私の知り合いの仙台の校長に話をしたら、10年前の大きな東日本大震災を経験しているいろいろな対策をしてきたけれど、いろいろなものが倒れ、どういうふうに対応

したら良いのか少し混乱したと、大きな災害につながらなかったのが幸いだと言っておりましたので、やっぱり子どもたちの安全を守ること第一に考えていかなければならないなと思っておりますし、そのためにもさっき江端教育委員からもあった体育館の空調も含めて防災機能の確保に、しっかりと取り組んでいかなければならないなと思っています。また、これも長寿命化計画などを策定し、市長のお力をいただきながらしっかりと進めていきたいと思えます。

最後になりますが、今回の教育大綱をまとめていただいて具体的に本当に実現していかなければならないと思っておりますので、いろんな先生方のお知恵をいただきながら、また学校現場の声も聞きながら、市民の皆さんの期待に応えられるように教育行政を進めていきたいと思っております。以上です。

○西端市長　ほかにございませんか。

○堀教育委員　次期教育大綱においてもグローバル化への対応を教育に対する理念の中で謳っておりますが、グローバル化と言えば保護者の皆さんはどういう小中の学校だったら良いと思われるかということ、塾とかに行かなくてもそこに通うだけで9年間で日常英会話ができるようになる学校や、英検3級が中学校の内容ですから最終的に英検3級が大体80%ぐらいは取れる学校というものです。例えば、タブレットを活用している私立学校がありますが、デジタル教材を入れますとその中に英語の英検のプランがあり、それを入れないで学習していたときは、英検3級をとった生徒が56%だったのですが、それを入れたら英検3級をとった生徒が89%も出てきたのです。だから9年間で丸ごと考えるということがもっと大事になって来るのではないかなと思います。

今、文科省は2022年に専科制を導入するという話も出ていますが、例えば9年間やる専科制の教科として候補に挙がるものは英語科なんです。守口市では英語科を9年間でやるとすると、小学校6年生と中1を連続的に考えることができるんですね。そこで、例えば中1の英語を教えている先生が小学校6年生の英語も教えるというような人材配置を考えると、中1ギャ

ップなどもなくなってくるし、中学校1年生は教科書によると小学校の復習から入るけれども、そういうこともなくなってくる。時間の短縮もできて、余った時間をほかのものに活用できるということも出てきます。

それから、日常会話をするためにはネイティブの先生が指導をなさる場合に、より経費の安い人材を選んで市費で雇ったり、守口市は英語教育、グローバル化に対応する教育をこのようにやりますよと保護者の皆さんにアピールしたり、例えば、ふるさと納税をいただいてそこから経費を捻出するとか、いろんな方法ができると思います。

何をキャッチフレーズにするかということが大事です。キャッチフレーズをつくったら、それをいかに保護者や市民に浸透させていくのか。そこに子どもが核になって市民が関わってくれば、英語への隔たりや抵抗があったものがなくなってくるような気がします。

例えば、ICTを有効に活用すれば、新学習指導要領でやっている主体的・対話的な深い学びを修得することができる。今まで見過ごされていた、分からないまま過ごしていた子どもたちがもう一遍、後戻りができる。2年生からでも3年からでもいつからでも再出発できる。それが守口市なんだと、基礎・基本をしっかり身につけさせる方策も考えているんだとすることができる。今海外で盛んに言われているSTEM教育、要するに理数教育ですが、例えば算数・数学のカリキュラムを9年間に編成し直すと、小学校のどこのカリキュラムをしっかりすれば中学校のここが結びついてくると、そういうところを疎かにするから中学校のここはなかなか理解できないんだと、そのカリキュラムの行き来、体系化ができるわけです。数学が専科制になれば中学校の先生が小学校の5・6年を教えたり、小学校の先生が中学校を教えたりできる。文科省はそれも考えている。

守口市はICTをやっていますから、例えば小学校と中学校とをオンラインで繋ぎ、中学校の授業がうまい先生が小学生に授業するというのも、小学校の子が中学校の先生に質問したりもできる。9年間の教育でいかにどういう子どもにするか、力をつけさせるのかを、守口市で青写真をしっかり描

いていけば、あんまりお金を投入しないでも、今いる人材を動かしたり、組み合わせたりもできると思う。そこで足りないものは、例えば外国人のネイティブの保護者がいらっしゃれば、そういう方にもボランティアで関わっていただく、そういう人材の広がりも出てくると思うんです。

だから、今ある守口市の資源の強みと弱みを分析して、強みのところからまず守口市の色をつけていく、アピールする色をつけていくことも非常に大事じゃないかと思います。9年間の全体構想として守口市の教育理念がありますが、その教育理念を小中学校の先生と一緒に、こういう子ども像をつくろうじゃないかということをもまずきちっと協議する。9年間の時間を、どこをどのように短縮していけばどういう時間が余裕として生まれるのかを協議する。そうすると、守口市の文化とか地域という教材をつくって、子どもたちがタブレットを持って守口市を歩いて、自分で守口市をアピールする新聞をつくったりもできるわけです。

守口市が全体の9年間の小中一貫教育という構想をうたっていますが、普通は小学校6年間終わったら中学校3年間過ごすということを、守口市は9年間で考えるんだと、保護者の皆さんも9年間一緒のため、小学校の保護者も中学校の保護者も仲よくなるんですね。9年間のスパンということはものすごく印象的です。挨拶や靴をそろえるなどを当たり前のようにやる守口市とか、そういうものを幼児教育から9年間やっていけばいい。9年間のスパンというものを、もう少し改めて考えていただけたらいいなと思います。

タブレットを小学校1年生から中学校3年生まで持つことで、中学生が小学校5・6年にタブレットの基本的な使い方を教えてもいいわけです。そういう交流もできるタブレットを核にして教育を描くことができる、学校教育の充実と学力向上というのは地域の活性化のコンテンツなのは間違いないのです。学力向上で教育に力を入れているところは人口が増えてきています。幼児教育を受けた人が外に逃げない。どうしてもそこの小中に行きたい。そういう青写真をみんなで描くというのを是非やってほしいと思います。

○西端市長　　ご指摘に関する今の取組状況を説明してください。



○事務局　いつも教育委員会定例会でもいろいろご議論をいただく中で、これまで中学校区ごとの地域の実情に応じた特色ということでさせていただいております。先ほどから地域ぐるみ、というご意見等いただいておりますが、今年度から学校運営協議会も全ての中学校区で設置させていただきました。コロナ禍ですので、活動の活性化というところがなかなか難しいところはありますが、既にスタートしておりますさつき学園の協議会の様子を見ましても、議論を重ねるたびに地域の方々の意識というのめかなり主体性を持った発言等をいただいております。

基本的には、校区ごとの地域、学校、そしてP T Aの代表の方等でこれから先この地域の子どもたちにどういう力をつけていくのかというところを議論、共有していただいて、それらの取組の活性化について教育委員会はしっかりとバックアップできるように取り組んでまいりたいなと思っております。

○西端市長　堀教育委員の話の中で、グローバル化で語学教育をしっかりとすることとありましたが、ボランティアで外国の方は来ていただいているのですか。

○事務局　出前授業的にはなりますが、地域に住まわれている外国の方にご協力いただくというものをこれまでに実施している学校もあります。ただ、市全体としましては、今、人材育成基金を活用してA E T派遣、これは小学校へ限られた数ですが派遣させていただいておりますのと、中学校には5名のA E Tを、時期をずらしながら全中学校に配置させていただいております。

加えて、府の教員の加配を活用しまして、現状では二つの校区はもともと中学校で指導に当たっていた教員が英語の専科授業に、また他校区では英語免許をもった小学校経験教員が授業に当たるというかたちをとっておりますので、ただ今ご審査いただきましたように、それをしっかりと9年間で繋いでいけるように、整理をしながら充実させていきたいと考えています。

○西端市長　堀教育委員の貴重な意見を賜りました。またよろしく申し上げます。ほかにごございませんか。

○太田教育長　　ちょっと違う切り口なんですけれども、西端市長も本当に教育に力を入れていただきまして感謝しております。本当に各学校も一生懸命に取り組んでいて、守口市に来て皆さんの教育に対する熱い思いを感じます。

そこで気になっていることは、大阪全体のことを考えると、全国から見ても大阪の教育というのは本当に様々な課題があるなと感じております。そして、国が示したいろいろな政府水準なども大阪は達成していないものが非常に多くあります。これは市でも努力はしているのですが、本来は都道府県がちゃんと整備しなければならないものを、大阪府が十分に市町村を支援していないもののがかなりあります。例えばスクールカウンセラー。国は小学校で全国1校に1人と示しているのですが、大阪府は中学校で1人になるかたちで少ない数を配置しております。今、特に小学校でいろんな課題が多く、スクールカウンセラーの相談件数も多くなって、本当に現場でも苦勞しているのですが、なかなか府は補助をつけてくれない状況です。ほかにもいろいろな補助事業の補助率なども国が3分の1、府が3分の2のところを府は6分の1しか出さなくて、市町村で残り2分の1を負担してくださいというものが実はたくさんあります。そういったことも教育長協議会からも大阪府教育委員会に要望しているのですが、なかなか大阪府も財政が厳しいということで実現していないものがありますので、またぜひ我々もこれからもそういった声を大阪府に伝えていきたいと思えます。市長からも大阪府知事に伝えていただければありがたいなと思っております。

こういった場で市長とお話できるのは本当に貴重な機会だと思っております。また来年度もこういった貴重な場を活用して、先生方と市長との共有の場を設けていただきたいと思いますし、新たな教育課題が生じてきておりますので、またこの総合教育会議を活性化させていっていただけたらなと思えます。どうぞよろしくお願ひします。

○西端市長　　今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。他にないようでございますので、本日はここまでとさせていただきます。

これからも守口市の教育行政の推進について、ご協力をよろしくお願い申し上げまして、本日は閉会とさせていただきます。ありがとうございました。

◇ 午前11時00分 閉会

~~~~~